

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
西洋音楽概論 3-C-2-14	近松 博郎	選択 (選択必修)	1	15時間	1/2	毎年

#### 【授業の概要】

これまで作曲者不明とされてきた鍵盤用作品 2 曲が、J. S. バッハ 10 代の頃の作品(推定)として昨年新たに認定されたことは大きな話題となった。バッハの初期作品については従来不明な点が多かったが、近年バッハ周辺の研究が進展したことでそこに新たな光を当て、解明の糸口を見い出せる可能性が広がってきた。本授業では近年の研究成果を踏まえ、若きバッハが先人たちの鍵盤用作品(オルガン曲およびチェンバロ曲)をいかに学び、自らの様式を開拓していったかを整理し再考する。

また履修者の状況により、本学が所有するチェンバロを授業内で履修者に試奏してもらう時間も設けたい。

#### 【到達目標】

J. S. バッハが創作活動の初期に先人作曲家たちの鍵盤用作品を学び吸収していった過程を学ぶ。またバロック時代の音楽家たちが音楽を学んだ方法がいかに現代と異なるかを知ることにより、自分自身の音楽修得の軌跡を振り返り、現代の専門的音楽教育の特性についても客観的に見つめ直せるようにする。

#### 【授業計画】

第 1 回 授業:	[4/22 (水) 16:00~17:40] 導入—J. S. バッハの各創作期とこれまでのバッハ研究の道のり バッハは時期ごとに様々な活動地を渡り歩き、創作活動を変化させていったことが知られる。初回授業では、まずこれらの時期ごとに彼の創作活動を概観する。また 18 世紀後半以降、バッハ研究がいかに進展し、手法を変化させつつ成果を上げてきたかを振り返る。
事前学習:	書籍等でバッハの生涯の略歴を確認しておく。
事後学習:	授業で扱ったバッハの鍵盤用作品 1 曲をさらに自分で調べて鑑賞し、簡単に解説できるようにする。
第 2 回 授業:	[5/27 (水) 16:00~17:40] J. A. ラインケンからの影響 ラインケンは北ドイツの主要都市ハンブルクのオルガニストとして名声を馳せていた。現存するバッハ最初期の楽譜はこのラインケンのオルガン曲を筆写したものであり、若きバッハが彼の作品を研究していたことが分かる。本講義では二人の作品を通してその影響関係を考察する。
事前学習:	ラインケンの鍵盤用作品を探し、1 曲聴いておく。
事後学習:	授業で扱った作品 1 曲をさらに自分で調べて鑑賞し、簡単に解説できるようにする。
第 3 回 授業:	[6/17 (水) 16:00~17:40] D. ブクステフーデからの影響 ブクステフーデはリューベックのオルガニストとして当時広く知られており、10 代のバッハがアルンシュタットからはるばるその演奏を聴きに訪れたエピソードが有名である。本講義ではおもにブクステフーデのオルガン曲に焦点を当て、その音楽的特徴を浮かび上がらせる。
事前学習:	ブクステフーデの鍵盤用作品を探し、1 曲聴いておく。
事後学習:	授業で扱った作品 1 曲をさらに自分で調べて鑑賞し、簡単に解説できるようにする。
第 4 回 授業:	[7/8 (水) 16:00~17:40] 即興演奏とオスティナート書法 当時の鍵盤楽器奏者にとって即興演奏の技術は欠くことのできない能力の一つだった。また即興演奏と密接な関係にあるのが、一定の低音主題の繰返しの上で音楽を変奏させていくオスティナート書法による作品である。これらの音楽と青年バッハとの関連をみていく。
事前学習:	《シャコンヌ 二短調》BWV 1178 と《シャコンヌ 短調》BWV 1179 を聴いておく。
事後学習:	授業で扱った作品 1 曲をさらに自分で調べて鑑賞し、簡単に解説できるようにする。
第 5 回 授業:	[9/30 (水) 16:00~17:40] コラール編曲の諸相 ルター派の讃美歌であるコラールのメロディーに和声をつけて伴奏することは教会オルガニストにとって必須の役割であり、のちに精巧に作り込まれた作品も書かれるようになる。こうしたコラール編曲のタイプをいくつか分類し、バッハとその他の作曲家の代表的な作品のいくつかを分析する。
事前学習:	「コラール・ファンタジー」の意味を調べ、代表曲を聴いておく。
事後学習:	授業で扱った作品 1 曲をさらに自分で調べて鑑賞し、簡単に解説できるようにする。

第 6 回 授業:	[10/21 (水) 16:00~17:40] バッハ一族、G. ベーム、J. バッヘルベルからの影響 幼い時期に音楽の手ほどきを受けた兄のヨハン・クリストフを始め、バッハは一族の様々な先人たちの音楽を学んだ。リュートではベームのもとで楽譜の筆写をおこなっていたことが近年実証され、兄の師であったバッヘルベルからの影響も指摘できる。本講義ではこれらの状況と作品を見直す。
事前学習:	《最愛の兄の旅立ちに寄せるカプリッチョ》BWV 992 を聴き、その概要を予習しておく。
事後学習:	授業で扱った作品 1 曲をさらに自分で調べて鑑賞し、簡単に解説できるようにする。
第 7 回 授業:	[11/11 (水) 16:00~17:40] イタリア音楽からの影響—コレツリ、ヴィヴァルディ ヴァイマルでの活動期に入った後のバッハ作品に関してはイタリア音楽からの顕著な影響がしばしば論じられてきた。事実、この時期のバッハはコレツリやヴィヴァルディの作品の編曲も行っている。それらの事例を手がかりに、イタリア音楽とバッハについて様々な観点からみていく。
事前学習:	《フーガ 短調》BWV 579 を聴き、その概要を予習しておく。
事後学習:	授業で扱った作品 1 曲をさらに自分で調べて鑑賞し、簡単に解説できるようにする。
第 8 回 授業:	[12/9 (水) 16:00~17:40] リトルネッロ形式の習得 バッハがイタリア音楽から学んだ重要な要素の一つが、主として協奏曲で用いられるリトルネッロ形式である。ここではこの形式に着目し、バッハがどのように自作品に取り入れているかを検証する。また《イタリア協奏曲》BWV 971 を取り上げ、弦楽合奏としてのイメージの復元も試みたい。
事前:	《イタリア協奏曲》BWV 971 を聴き、その概要を予習しておく。
事後:	リトルネッロ形式で書かれた鍵盤用作品を他にも弦楽合奏として構想してみる。

**【履修資格／履修に必要な予備知識や技能】**

1・2年次生。再履修:可。 ※専修免許状取得申請予定者必修科目。申請予定者は2年通して履修すること。

**【授業の形式】**

講義

**【成績評価の要点】**

試験:なし 提出課題・作品発表等(事後学習課題の完成度およびレポート):70% 受講姿勢(出席や発言など、授業への積極的な参加):30%

成績評価は、上記の項目に基づき「優」「良」「可」「不可」で評価する。

**【課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法】**

事後学習へのフィードバックは次回授業で行う。授業最終回で課すレポートへのフィードバック(講評コメント)はメールにて送付する。

**【教材】**

教材・資料はそのつど授業内で配布する。

**【授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合】**

オフィス・アワーで受け付けるほか、授業の前後 10 分間にも質問可。簡単な内容であればメールによる問い合わせにも対応する。